

一般国道42号線すさみ串本道路建設事業に伴う
里野中山城跡発掘調査 現地説明会資料

令和2年2月8日（土） 午後1時～3時



公益財団法人
和歌山県文化財センター

和歌山市岩橋1263番地の1
電話：073-472-3710



里野中山城跡と枯木灘海岸を望む

はじめに

国土交通省近畿地方整備局紀南河川国道事務所により近畿自動車道紀勢線すさみ串本道路建設事業が計画され、その計画延長は19.2kmにも及びます。事業予定地には複数の周知の埋蔵文化財包蔵地が含まれることから、道路の橋脚建設予定地である結城城跡と里野中山城跡において今回の発掘調査を実施しました。

結城城跡は和歌山県東牟婁郡串本町有田上地内の、海に向かって開けた谷の奥まった、標高84mの山頂にあり、古座川への道沿いに位置する陸海の交通の要地にあります。堀・土塁・曲輪をもつ、比高（麓との高低差）75mの山城跡です。築城年代や築城者は不明ですが、鎌倉公方・足利持氏の遺子とともに関東管領上杉氏や幕府に反抗して常陸結城城合戦で敗れ討ち死にしたとされる、結城少将氏朝が逃れ住んだと伝えられています。

令和元年8月から9月に結城城跡の東麓の一部（調査面積：約100㎡）を調査し、現在は終了しています。多くの柱跡が確認されて2間×3間以上のものを含めた掘立柱建物が4棟以上確認されました。柱跡から出土した遺物から室町時代から安土桃山時代のものと思われる。直径2mほど、深さ1m以上の石積み井戸とその井戸に続く石段が確認され、井戸内から美濃焼皿、唐津焼鉢などの安土桃山時代から江戸時代初めごろの陶器片が出土しました。

山城の存在した中世後期から近世にかけて、周辺で集落の営まれた様子が確認されました。



上：結城城跡発掘調査地遠景(北から)
左：結城城跡位置図

調査成果 里野中山城跡

里野中山城跡は和歌山県西牟婁郡すさみ町里野地内にあります。枯木灘を望む標高35mの丘陵上にある、比高25mの山城です。周辺の城館遺構は多くなく貴重な遺跡のひとつですが、踏査以外の調査例はなく山城の築年代や築城者も不明です。「中山城」ではなく「城屋敷」として伝えられ、伊豆の伊東祐親の末裔が日向国より逃がれ住んだとされていますが確かなことはわかっていません。



里野中山城跡位置図

現状は雑木林ですが、近世末から近代以降に開墾され、山の西斜面を柿やスギ・ヒノキなどを植えた段々畑として築かれた石積みと西麓まで続く石段が現在も残っています。

令和元年9月から開始した、今回の調査（調査面積：1700㎡余り）によって里野中山城跡は東西南北の四方に土塁（防御のための土手）を巡らせた山城跡だと確認されました。山頂の地面を削って平坦地（曲輪）をつくり、その際に出た土を外側に盛って土塁としています。曲輪は東西29m、南北23～38mの台形をしています。後世の耕作や自然崩落などによって曲輪や土塁、東西の斜面も削られて元の状態が分かりにくくなっています。北土塁では曲輪の床面から高さ3m以上が残っており、北・東土塁の内側には犬走状の段があります。土塁はほぼ一周していますが繋がっていない部分があり、虎口(出入口)の可能性もあります。曲輪東南側には南北方向に延びる長さ14mほどの踏み固めたような通路状の遺構があります。その東隣には下層の岩盤を削ってつくられた円形の大きな土坑があり、水溜めではないかと考えています。

曲輪や東斜面の堆積土から、唐津焼の茶碗や備前焼の播鉢などの安土桃山時代から江戸時代初め頃の遺物が出土しました。山城の存続していた時期を示すものと思われる。

海に面した丘陵上に築かれた里野中山城跡は海路と佐本や大鎌に続く道沿いの交通の要衝という、山城を築くのにふさわしい場所であると思われる。

参考文献：

和歌山県教育委員会「和歌山県中世城館跡詳細分布調査報告書」1998年、白石博則「里野城屋敷跡」『和歌山城郭研究第17号』2018年
野田理「結城城跡」『和歌山城郭研究第18号』2019年、「すさみ町誌 上巻」昭和53年



4-2区 上空からみた山城の北半分



5区 上空からみた山城の南半分



4-2区曲輪 山城の土塁（北半部）



4-2区 北土塁盛土の確認（西南から）

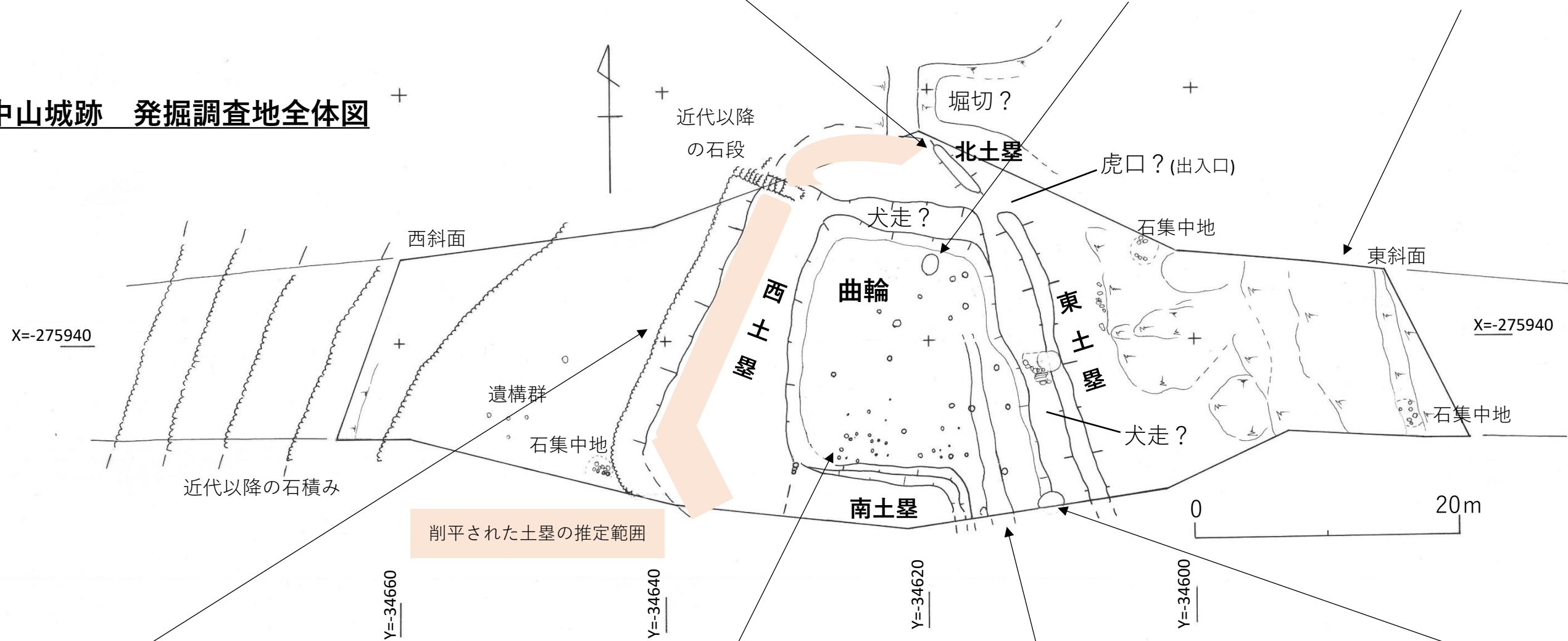


4-2区曲輪内 多くの石が出土した土坑



4-1区 東斜面掘削状況（東北から）

里野中山城跡 発掘調査地全体図



4-2・5区西斜面 近代以降の石積み



5区 曲輪内の遺構群(南から)



5区 通路と思われる遺構(南から)



5区 通路東隣の土坑(水溜?) (西から)